

パキスタン地震情報

第18報【2005年11月18日 日本ユニセフ協会発】



©UNICEF Pakistan/2005/Zaidi

パキスタン北部で起こった大地震から1ヶ月以上経つたいま、被災地は厳しい冬を迎えようとしています。被災者への緊急支援に対し、これまでも、多くの方から温かなご支援をいただきました。しかし一方で国際社会の関心は薄れつつあります。昨年末のスマトラ沖地震・津波の際には、地震発生から1ヶ月で6ヶ月間の支援活動に必要な額の140%に相当する資金がユニセフに寄せられました。

しかし今回のパキスタン地震では、ユニセフの6ヶ月間の必要資金額9,250万米ドル(約108億円)に対し、各国政府や民間からの支援はいまだ45%の4,180万米ドル(約49億円)に留まっています。

降雪が始まれば、山岳地帯に集中している今回の被災地への陸路での物資輸送はさらに困難になり、コストの高い空輸に頼らざるを得なくなります。冬の真っ只中で資金が枯渇すれば、多くの被災者が寒さ、飢え、病気の危険にさらされます。生活物資の調達のみならず、きれいな飲み水、衛生的なトイレなどの設備を整えることも緊急の課題です。ユニセフはキャンプ内での給水やトイレの設置などをおこなっていますが、まだ170万人が安全な水を手に入れられない状況であるとみられています。残念ながら、不衛生な環境に起因する下痢などの疾病で子どもが命を落としたとの報告が既に入ってきています。

先月被災地を訪れたユニセフ事務局長アン・ベネマン氏も、「支援は一刻を争う」とその緊急性を協調しています。また現在は、事態を重く見たアナン国連事務総長が支援活動のオペレーションや被害状況を確認するために現地に出発しています。

日本ユニセフ協会は、地震を生き延びた人々を二次災害から守るために、パキスタン緊急募金へのご協力を呼びかけています。皆様のご支援をお願いいたします。

[資料提供：日本ユニセフ協会]

世界の子どもたちは、今

スーダン



©UNICEF/Ben Parker/2005

【村の行事に参加するスーダンの子どもたち】

独立以来「平和」は10年だけ

1956年の独立以来、スーダンはたった10年程度しか「平和」を経験したことがありません。

現在まで続く紛争の背景には、非常に根深い複雑な問題があります。不十分な行政、宗教、文化、言語、民族、石油など、さまざまな問題が絡まりあい、複雑にしてきました。

今年1月現在、約240万人がこの紛争の被害を受け、184万人が国内避難民としての生活を余儀なくされています。18歳以下の子どもが約130万人。5才以下の子どもが約55万人と推定されています。

多くの子どもたちが、いまだに「予防可能」な病気で命を落としています。ポリオや麻疹、マラリアや脳髄膜炎がダルフール地方の子どもたちの間にまん延しています。予防接種などが普及していないためです。ユニセフは現在、ダルフールで157の保健センターを支援し、予防接種や妊婦検診等のサービスを提供しています。

水と衛生の分野での人道支援も成果を上げ、多くの人々が安全な飲料水を飲むことができるようになりました。しかし一方で、いまだに多くの子どもたちが水を原因とする病気で死亡しています。ユニセフは、これまでに約80万人に安全な水を提供し、60万人に適切なトイレを提供しました。しかし、より多くの人に、同様の支援を届けなければなりません。

ユニセフは、こうした状況の中で「教育」こそが子どもたちに「安定」と「日常」と「希望」を与える「鍵」を握ると考えています。戦争によってトラウマ被害を受けた子どもたちには、守られ安心できる場所が必要です。ユニセフの教育支援によって、16万人以上の子どもたちが学校に通えるようになりました。そのうち47%が女の子です。しかし、これは学校に通っているはずの子ども全体の30%にしか過ぎません。ユニセフは政府が必要十分な数の教師を採用し小学校を建設するよう訴えています。

紛争が長引き、世界の別の場所で紛争や自然災害が起こり、国際社会の関心がそちらに向けられつつあります。しかし、全般的な状況がさらに悪くなっているこの時期に、私たちはダルフールの子どものことを忘れてはいけません。

[資料提供：日本ユニセフ協会・信濃毎日新聞]

☆ 世界には、大変厳しい人道危機が続いているのにもかかわらず、それがあまりにも日常化しているために、まったく知られていない国や地域が30以上もあります。

今年の「第27回ユニセフ ハンド・イン・ハンド やってみよう！年末募金活動」は、普段報道などではほとんど伝えられない国や地域の、支援を必要としている数多くの子どもたちのために実施されます。

詳しくは7～8ページにご案内していますので、皆さまのボランティアご協力等よろしくお願ひします。

☆ 小城中学校生徒会の皆さんは、毎年「小城ふるさとまつり」の会場でユニセフ募金に取り組んでくださっています。



(小城中学校生徒会の皆さん)

小城市立小城中学校生徒会本部
3年 阿津坂 優也さん

パキスタン大地震によって苦しんでいる人々のために少しでも役に立てれば…。そんな思いで僕はユニセフ募金活動に参加しました。雨が降ったりやんだり、急に暑くなったりと不安定な天気の日でしたが、被災

地の方々のことを考えると、弱音を吐くわけにはいきません。道行く人々に生徒会の仲間 20 人で精一杯に呼びかけました。集まった金額はわずかかもしれませんが、募金に協力されたたくさんの方々の思いが伝わっています。そして、僕たちもそんな思いを一人ひとり心にこめていました。

こうして集まった義援金が被災地の方々に笑顔をもたらすことを願っています。

かつどうほうこく

- ◎ 9月7日(水)～8日(木) 北方町立北方中学校2年生「みんなで作る『チャレンジウィーク』」体験活動受け入れ
- ◎ 10月13日(木) 佐賀市立鍋島中学校1年生事務所訪問
総合学習「町の人たちと協力して募金活動をしよう」に関して、世界の子どもたちの現状について調べ学習
- ◎ 10月16日(日) さが国際交流・協力フェスタ2005 (佐賀市アバンセ)



パネル展



パキスタン大地震緊急募金



ユニセフグッズ頒布

成章中学校3年生の皆さんも飛び入りで募金活動に協力

- ◎ 10月16日(日) 鳥栖市「健康福祉まつり」にてユニセフグッズ頒布 (鳥栖市文化会館)
- ◎ 10月22日(土) 嬉野町立嬉野中学校3年生事務所訪問
文化祭テーマ「平和と一人ひとりが主役」に関する調べ学習

◎ 10月23日(日) パキスタン大地震緊急支援街頭募金 (佐賀市ジャスコ佐賀大和店)



小学生、中学生、高校生の皆さんを含め15名のボランティアで「パキスタン地震の被災地では子どもたちが寒さに震えています。毛布が足りません。テントが足りません。」とお客様に募金を呼びかけました。

◎ 10月24日(月) 佐賀市立巨勢小学校4年生ユニセフ教室 (佐賀市立巨勢小学校)
道徳「生き方をみつめる」に関連して「～5歳まで生きられない命～」



命と水について



水はこび



スペシャルドリンク作り



ボランティアの思いは…

子どもたちの声

- ☆ ユニセフの方に来ていただいてありがとうございました。5才の誕生日を迎えることができない子がたくさんいることや、水を自由に飲むことができない場所があることなどいろいろ教わりました。私はテレビで地しんのことなどを見て何かできることはないのかなと思っていました。テレビにうつる人々の顔はみんなしんけんでした。今、日本は平和なのに同じ地球の人なのに...と思っています。
- ☆ ぼくはユニセフで学んでとても一人一人が大切だなあと思いました。そして人を大切にしなきゃなと思いました。本当にそういうことを教えてくれてありがとうございました。

- ◎ 11月3日(木)～6日(日) 第9回うーたん通り秋の窯祭会場にてユニセフグッズ頒布 (上有田 緑のテラス清水)
- ◎ 11月3日(木) 佐賀幼稚園バザーにてユニセフグッズの頒布 (佐賀市立佐賀幼稚園)
- ◎ 11月6日(日) 「小城市ふるさとまつり」にてパネル展・募金活動・ユニセフグッズ頒布 (小城市小城公園)

昨年までは「小城ふるさとまつり」でしたが、今年は旧小城町、旧三日月町、旧牛津町、旧芦刈町の四町が合併して「小城市ふるさとまつり」となりました。小城中学校生徒会の皆さんの「パキスタン緊急募金」活動に、地域の方々の温かいご協力がありました。



- ◎ 11月9日(水) 大木町立大溝小学校6年生ユニセフ教室 ① (三潞郡大木町立大溝小学校)
総合学習「何かができる…自分たちにできるボランティア ① ～世界の子どもは、今～」



世界の人口は？50年前は？50年後は？

アジアは人口が多い！

フォトランゲージで考えよう

子どもたちの声

- ☆ ぼくは、プレートに書いてあった場所へ動くのが頭に残っています。ぼくは、北アメリカ・中米の所でしたが、アジアはいっぱいぼくたちの所の10倍ぐらいあったのでびっくりしました。アジアの人の数ってむちゃくちゃ多いんだなあと思いました。そして、オセアニアが少ないのにもびっくりしました。大溝小に来てくれてありがとうございました。
- ☆ 私はユニセフの方のお話を聞いて自分を見直すことができました。今までの自分は、ご飯を平気で残したり、いらなくなった物を平気で捨てたりしていました。でも今、私を変えたいなあと思っています。ご飯をきちんと食べたり物を大事に使ったりしていったら自分は変われるような気がします。私の知らない世界をもっともっと知っていきたいし、私にできることを考えていきたいです。

- ◎ 11月12日(土) 第18回「かたりべの里本庄祭」にてユニセフグッズの頒布 (佐賀市立本庄小学校)
- ◎ 11月13日(日) 日本バプテスト連盟佐賀キリスト教会にてパネル展&ユニセフグッズの頒布
(佐賀市佐賀キリスト教会)
- ◎ 11月16日(水) みやき町立三根中学校3年生事務所訪問
総合学習「共生 ～国際協力～」に関する調べ学習
- ◎ 11月21日(月) 佐賀県合同庁舎にてユニセフグッズの頒布 (佐賀市合同庁舎)
- ◎ 11月22日(火) 佐賀県庁にてユニセフグッズの頒布 (佐賀県庁)
- ◎ 11月25日(金) 川副町役場にてユニセフグッズの頒布 (佐賀郡川副町)
- ◎ 11月30日(水) 大木町立大溝小学校6年生ユニセフ教室 ② (三潞郡大木町立大溝小学校)
総合学習「何かができる…自分たちにできるボランティア ② ～命と水～」

これからの活動予

ボランティア募集!! 0952-28 -

- ふれあい人権フェスタ2005 ～思いやりの心・かけがえのない命を大切に～ 主催：佐賀県他
*とき：12月10日(土) 9:20～16:30 *ところ：千代田町はんぎーホール&保健センター
*ユニセフ協会佐賀県支部はCSO活動ブースで「子どもの権利条約パネル」と「支部の活動」を紹介します。
*石原良純氏の講演「人権と家族愛」もあります。(13:00～14:30) 入場無料:おいでをお待ちしています。
- 第27回ユニセフハンド・イン・ハンド「手と手で結ぶ子どもの未来」12月18日(日) 14:30～15:30
*詳しくは7～8ページをご覧ください。
*師走の多忙なときではありますが、世界の子どもたちのために1時間ほどお手伝いをお願いできませんでしょうか？ 皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

ご支援・ご協力 ありがとうございます

北方中学校 3年生様 バリュー平山店様 (社)日本バーテンダー協会九州地区本部佐賀支部様
吉原内科様 (株)筑紫建設様 小城中学校生徒会様 佐賀子ども劇場様 清和中学校様 コープさが様
佐賀県国際交流協会様 巨勢小学校様 東与賀町役場様 佐賀幼稚園様 蜂谷法律事務所様
呼子中学校生徒会様 本庄公民館様 日本バプテスト連盟佐賀教会様 唐津第一中学校様
緑のテラス清水様 佐賀リハビリテーション病院様 野中商店様 カイセイ薬局荒江店様
すぎの子文庫様 水ヶ江調剤薬局八田店様 椛島会計事務所様 雇用能力開発機構様 山口商事様
三又中学校様 大川東中学校様 大川中学校様 三又小学校様 木室小学校様 ジョブカフェ様
循誘公民館様 佐賀労働基準協会様 日之出鋼管株式会社様 九電工労組佐賀支部女性委員会様
佐賀県庁国際課様 佐賀第2合同庁舎様 川副町役場様 小城市役所様 (2005年9月8日～11月25日)

※ 様々な形でのご支援ご協力を感謝します。

※ 個人の方々からもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、お名前の掲載は控えさせていただきます。



『子どもたちの笑顔のために ユニセフと歩んだ50年』

日本ユニセフ協会創立50周年記念史ができました。

(財)日本ユニセフ協会の創立50周年を記念して、50年間の歴史を1冊にまとめた記念史が完成、(株)出版文化社から発行されました。

編 著 : 日本ユニセフ協会社史刊行会

発 行 所 : (株)出版文化社

製作協力 : (財)日本ユニセフ協会

定 価 : 1,700円(税込)

体 裁 : A5版、232ページ

* 本書の定価(税込)にはユニセフへの募金が含まれ、1冊の購入につき、一定額が募金※になります。

2005年、日本ユニセフ協会は創立50周年を迎えました。戦後ユニセフからの援助を受けていた被援助国の立場から、民間組織として今やユニセフを支える世界一の組織にまで成長しました。

多くの方々からの信頼をいただき、募金やアドボカシー(政策提言)活動に対する力強いご支援をいただけるようになるまでの半世紀の間には、知られざる歴史がたくさん積み重ねられてきました。

日本ユニセフ協会の成長を支えてくださった方々のインタビューなど、たくさんの方々の声をもとに、50年の歴史がいま鮮やかに蘇ります。

※購入ご希望の方は事務所までご連絡ください。 <お問合せ> TEL&FAX 0952-28-2077

<http://www2.odn.ne.jp/unicef-saga/>

※ユニセフ募金

書店購入の場合: 1冊につき100円が募金になります。

出版文化社から直接ご購入の場合: 1冊につき400～500円が募金になります。

(財)日本ユニセフ協会創立50周年記念事業

第27回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド in 佐賀県

やってみよう 募金活動 ボランティア募集集中!



©UNICEF/Sierra Leone

～ 手と手で結ぶ、子どもの未来 ～

予防接種、乳幼児死亡数、初等教育の就学率等、皆さまのご支援で少しずつ向上しています。しかし、一方では出生登録がされないため保健や教育のサービスを受けられない子ども、人身売買の対象にされている子ども、エイズで親を亡くした子どもたちもまだまだたくさんいます。このままでは世界の子どもたちに明るい未来を約束することは困難です。一人でも多くの子どもたちが明るい未来に希望を持つことができますようにとの願いを持って、今年も下記の通りユニセフ ハンド・イン・ハンドを実施します。お近くの会場で、あるいはご家庭や職場で皆様のご協力をお願いします。

期日	時間	佐賀地区会場
12月18日(日)	14:30～15:30	佐賀市：佐賀玉屋デパート前 佐賀市：ジャスコ佐賀大和店 東与賀町：イオンスーパーセンター 佐賀店 上峰町：上峰サティ

鹿島地区・武雄地区でも実施予定です。

参加申込書は裏面にあります。

お問い合わせ
 (財)日本ユニセフ協会佐賀県支部 (佐賀市水ヶ江4-2-2)
 電話&ファックス 0952-28-2077
 e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp



ハンドインハンドってなあに?
 世界の子どもの達のしあわせと明るい未来を実現させるために市民一人ひとりがボランティアとして参加する全国一斉の募金活動です。「国際児童年」に始まり、今年で二十七回目を迎えます。



unicef-saga/2004

第27回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド

～ 手と手で結ぶ、子どもの未来 ～

ボランティア参加申込書

期日	時間	参加会場 () に○印を付してください
12月18日(日)	14:30～15:30	() 佐賀市 佐賀玉屋デパート前交差点付近
		() 佐賀市 ジャスコ佐賀大和店
		() 東与賀町 イオンスーパーセンター佐賀店
		() 上峰町 上峰サティ

☆ お名前 _____

☆ ご住所 〒 _____

☆ 電話 _____ FAX _____

ご意見、ご要望などがありましたらこちらへ

.....
.....

ご参加ありがとうございます!!

- ◎ 15分前までに会場においでください。
- ◎ 青いユニセフのジャンパーを着たスタッフがお待ちいたしております。
- ◎ 当日の気候に合わせて寒くないようにしておいでください。
- ◎ 交通事故等にはくれぐれもご注意ください。

